

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2026年 2026～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

ア これまでの取組

（ア）新病院開設準備委員会

新病院の開院に向けて、高度医療・人材育成拠点基本計画を具体化するため、現在の取組や経営状況等について協議を行った。

【開催日】第8回委員会（令和7年7月15日（火）開催）

【構成員】県立広島病院、県立二葉の里病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター、広島大学病院、府中市、安芸太田町、広島県立病院機構、広島市、広島県

【議 題】・新病院の取組状況について

・令和6年度病院事業会計決算について

【意見等】

区分	内容
大学との連携	・大学病院と新病院が協働し、それを将来にわたって継続していくことが重要である。
医療機能の強化	・今後は、増加する高齢者救急の需要と、若年層に対して基幹病院が担う救急の需要を適切に峻別して対処していかなければならない。 ・<u>救急医療の面で新病院に期待する点は非常に大きい。新病院が担う救急について、県民・市民の方々に分かりやすい説明を続けてほしい。</u>
持続的な経営	・急性期病院の外来はほとんどが不採算であり、診療単価や患者数が想定より少ない場合、病院全体の収益への影響が大きいので、厳しめにシミュレーションした方が良い。 ・<u>急性期病院については、将来の需要を含めて役割や病床規模などを考えていかなければ、地域の医療提供体制が不十分となったり、財政的な負担が大きくなったりする。</u> ・財政的な負担も考慮して、新病院の役割や病床規模など十分な検討が必要。財政上の負担を法人だけが背負うことがないように考慮すべき。

(イ) 医師配置検討委員会

地域医療体制の確保に向けて、大学、県といった人事権者等が参画する「医師配置検討委員会」を開催した。

地域の拠点病院を中心とした地域医療ネットワークにより、医療機関の連携体制を前提とした医療ニーズを集約するとともに、そのニーズに基づき、自治医科大学卒業医師や大学地域卒卒業医師に加え、大学医局医師も含めた医師の配置調整を行うため、関係者間で情報共有を行った。

【開催日】第1回委員会（令和7年7月29日（火）開催）

【構成員】大学、大学病院、広島県医師会、地域医療ネットワーク拠点医療機関等、市町、広島県、広島県地域医療支援センター

【議 題】令和8年度広島県医師配置要望調査結果の共有について

【意見等】

区分	内容
医療機関の連携	・まずは、地域医療ネットワークが構築されている備北地域、芸北地域から取組を開始する。 ・ネットワークによる連携の取組が今後、県内各地で進んでいくとよい。 ・<u>ネットワーク内の診療支援を円滑に運用させていくためには、自院での業務に加えて、他の医療機関を支援する医師等に対する何らかのインセンティブが重要。</u> ・<u>県外から若い医師が県内に流入し、広島県の医師数を増やし、こういった仕組みによって、配置されていくことが必要。</u>

(ウ) 県民公開セミナー

高度医療・人材育成拠点基本計画について、県民の理解促進及び機運醸成を図るため、医療再編や新病院に関連するテーマに基づき、大学講師等の講演やパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

【日 時】 令和7年7月6日（日）13時～16時開催

【会 場】 広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里三丁目2番3号）

【主 催】 広島県／【共 催】 一般社団法人広島県医師会、株式会社中国新聞社

【内 容】 ※ Web 視聴可（YouTube 配信）

テーマ	医療DXの未来～病院も、診察も、時代とともに進化中。医療DXって何だろう？～
座長	秀 道広（広島市立病院機構 理事長）
県の取組説明	渡部 滋（広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長）
基調講演	板本 敏行（県立広島病院 院長）
講演	藤川 光一（広島県医師会 常任理事） 坂本 友禎（広島市立病院機構 本部事務局 財務課 情報・DX戦略担当課長） 檜垣 徹（広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授） 長 英一郎（東日本税理士法人 所長）
パネルディスカッション	モデレータ：座長 回 答 者：全講演者
参加人数	248名（会場158名・Web最大同時接続数90名）

※敬称略

【主な質問とパネルディスカッションにおける回答】

質問	回答
医師の経験や対話を通じた信頼関係、思いやりなどの温かい医療が無くなっていくことはないか。	・温かい医療とDXは相反するものではなく、医療提供側の努力や工夫によって共存できるもの。DXによって診察以外の雑事や負担を減らし心の余裕が生まれれば、より患者と向き合う事に充てられると思う。
オンライン診療やPHRなどを使いこなせない人は、得られる情報が不足したり、受けられる医療が限られたりといった不利益を受けないか。	・AIによる診断技術は病院が使うものであり患者の得意不得意にかかわらず恩恵を受けることができる。 ・病院受診に当たっては、デジタル・紙の2通りの手段を提供したり、周囲が補助するなど、過渡期においては不利益とならないよう医療提供側がサポートする必要がある。
患者情報のセキュリティをどのように確保するか。 地域医療や在宅医療を向上するために、医療機関やサービス事業者の間で、患者情報はどのように共有されるようになるのか。	・元々医療提供側は患者情報の取り扱いに慎重である。電子カルテの情報の外部とのやり取りは、今もセキュリティレベルを非常に高く設定している。 ・病院外のサービスは、利用者同意の範囲内で情報収集を行っている。

<セミナーホームページ>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten-seminar2025-jul.html>

(※県民公開セミナーにおける講演や新病院に関する県からの説明動画、県民からの質疑応答などを掲載)



イ 今後実施するもの

(ア) 県民公開セミナー

7月に引き続き、高度医療・人材育成拠点（新病院）県民公開セミナーについて、11月16日に「救命救急」をテーマとして開催する。

【日 時】 令和7年11月16日（日）13時～15時開催予定

【会 場】 広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里三丁目2番3号）

【内 容】 ※ Web 視聴可（YouTube 配信）

テーマ	救命救急 ～新しい病院が担う救急の役割～
座長	志馬 伸朗（広島大学大学院 医系科学研究科 教授）
県の取組説明	渡部 滋（広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長）
講演	岡野 里香（広島市立舟入市民病院 副院長） 大下 慎一郎（広島大学大学院 医系科学研究科 准教授） 世良 俊樹（県立広島病院 救命救急センター 救急科 主任部長） 魚谷 啓（広島県医師会 常任理事）
パネルディスカッション	司 会：志馬 伸朗（広島大学大学院 医系科学研究科 教授） 回答者：全講演者

※敬称略

【申込方法】（会場参加のみ、Web 視聴は申込不要）（9月5日（金）11:00 公開予定）

https://apply.e-tumo.jp/pref-hiroshima-u/offer/offerDetail_initDisplay?tempSeq=25046

県ホームページ（県民公開セミナー）掲載の電子申請又はFAXから申込みが可能。合わせて質問・意見を受け付ける。



(3) 予算額（一部国庫）

令和7年度当初予算額 67,073,308 千円（債務負担行為額 1,249,000 千円）

(4) その他

高度医療・人材育成拠点の整備について（広島県 HP）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

(※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載)



地方独立行政法人広島県立病院機構について（法人 HP）

<https://hpho.jp/>

(※機構概要、病院紹介などを掲載)

